

生命を守る 寄り添う

水が引くのを待って直ちに支援を開始しました ＜グリーンコープ生協ふくおか＞

支援継続中

発災当時、河川の水が内水氾濫を起こし、大牟田市の三川地区の地盤の低い地域が広範囲にわたって浸水しました。グリーンコープ生協ふくおかは、直ちに小学校や体育館など数カ所の避難所へタオルや支援物資を届けました。

発災直後のお弁当や食料、飲料水などの支援物資にカンパ金を活用しました。また、衣類を無料配布や安価で販売したファイバーリサイクル市の費用をカンパ金で補いました。



万々に備えて、つながりを大切にしていきたい

グリーンコープ生協ふくおか 南地域理事長 砥上 叔子さん

着のみ着のまま避難された方たちのために、8月に無料のファイバーリサイクル市を開催した際は、その時季にすぐ着れるものを準備しました。

自宅が水没してしまった高齢の組合員さんから、家の片付けを手伝ってもらえないかと連絡がありました。以前訪問した際に、困ったことがあれば何でもお手伝いしますと伝えていたので、それを覚えていてくださったのだと思います。支援をしていく中で感じたのは、人とのつながりや輪がとても大事だということ。今の時代、人とのつながりが希薄になっていて、隣にどんな人が住んでいるのか分かりません。災害の時は、それがほころびとして現れます。普段から声かけを続けて、もし何か起きた時は、いつでも協力できるようにしたいと考えています。

生命を守る 寄り添う

九州北部豪雨や台風の災害の支援経験が活かされました ＜グリーンコープ生協おおいた＞

支援継続中

日田市では、発災直後に主要道路の陥没や土砂崩れが発生し、多くの家屋が浸水しました。グリーンコープ生協おおいたでは、食料品、トイレトペーパー、履物などを、避難所や被災された方のご自宅へ届けました。生活用品が流されてしまった方が多かったため、ファイバーリサイクルセンターの衣類も届けました。



地域のボランティアの方々や職員が、被災されたお宅の土砂出しを行いました

食材や生活用品の購入、災害復旧で使用したダンプカーのレンタル代にカンパ金を活用しています。

これからも被災された方に寄り添った支援を続けます

グリーンコープ生協おおいた 日田センター長 神崎 朋宏さん

玖珠郡九重町で12世帯が床上浸水し、土砂出しのための人材が不足しているという情報が入り、グリーンコープ生協おおいたでボランティアを募りました。組合員、職員ら約10人で交代しながら約半年間、土砂出し作業を続けました。被災された方の笑顔を見ると、疲れは吹き飛びました。

災害から1年が経過し、被災された方が希望されることも変わってきました。みなし仮設住宅に入られた方への行政の支援は2年で終わります。その後の住まいの不安など、困りごとの相談が増えており、みなし仮設住宅の方の所へは定期的に訪問したり電話をしています。日田はご高齢の方が多く、孤独を感じたり、気持ちが落ち込んだりする方もいらっしゃるため、見守り支援を行っています。今後は、引っ越しや災害処分品を運ぶ支援を続けていきます。

寄り添う

キッチンカーと元気カーで地域に元気を届けています ＜グリーンコープ生協くまもと＞

支援継続中

被災された皆さんに温かい食事を届けたいという思いで、組合員から寄せられたカンパ金を活用したキッチンカーが、今年の1月に完成しました。現在グリーンコープ生協くまもとの「ワーカーズコレクティブ・ヒトハレ(旧キープ&ショップ人吉 手とてとて)」が運営を担っています。

カンパ金は、食材の購入やガソリン代に活用しています。



被災した地域同士のつながりも生まれています

グリーンコープ生協くまもと 理事長 高濱 千夏さん

熊本地震、令和2年7月豪雨災害、コロナ禍と、「熊本は三重苦」と言われています。熊本地震で被災された方々が災害公営住宅へ移転される時期がコロナ禍と重なった所もあり、見守りができずもどかしい思いをしています。孤立されている方もいるのではと心配しています。

熊本地震の支援でつながった熊本市や益城町などの皆さんから、令和2年7月豪雨災害で被災した人吉地域の皆さんのことを思ってたくさんの応援をいただきました。被災地同士がつながり、支え合う関係も生まれています。

人と人がつながるカフェができればいいなと考えています

ワーカーズコレクティブ・ヒトハレ 代表 御園 豊子さん

元気カーでの移動販売で市街地から離れたところにある仮設住宅や、不便な地域のご高齢の方のもとへ、見守りを兼ねて訪問しています。皆さん毎回の訪問を楽しみにされている様子です。コロナ禍でキッチンカーの活動ができない時期もありましたが、10月に活動を再開しました。

この1年間で物質的なことはだいぶ解消されてきたと思いますが、落ち着いてくると寂しさや不安を感じる方が増えているように思います。これからは、地域のコミュニティづくりが必要だと感じています。コロナ禍が落ち着いたら人が集えるカフェができればいいなと考えています。

令和2年7月 豪雨災害

コロナ禍でも、これまでの経験を活かすことで、現地のグリーンコープを中心に支援を継続しています

2020年7月4日未明に熊本県南部を襲った豪雨に続き、九州北部も記録的豪雨に見舞われ、広域にわたって被害を受けました。グリーンコープは、発災直後から熊本県の球磨川流域、大分県日田市、福岡県大牟田市を中心に避難所や組合員宅を訪問し、支援物資を届けました。現在も、被災された方への買い物支援や見守り、仮設住宅やみなし仮設住宅から自宅への引っ越し支援などに継続して取り組んでいます。

令和2年7月豪雨災害支援募金 会計報告

(2021年7月20日現在) (単位:円)

カンパ金	
組合員カンパ	114,028,049
他団体カンパ	7,275,141
他収入	4,611,245
カンパ金 集計	125,914,435
支援費	
被災地支援金	27,744,220
支援食材	13,588,141
支援物資	24,025,016
各種取組費用	59,705
支援者交通費	10,099,612
支援者宿泊費	953,048
被災地常駐スタッフ人件費	5,177,677
施設費用	4,931,202
車両関係費用	3,780,607
諸経費	287,174
支援費 集計	90,646,402
残金	35,268,033

カンパ金の今後の用途

おおいたでは、見守りを兼ねた食料品のお届けや、ボランティア団体ヘダンブカーの貸与を継続します。くまもとは、キープ&ショップ人吉の再建、元気カー・キッチンカーの活動、家屋の片付けなどの支援を継続してまいります。